

倶多楽

1 概況（平成 14 年 10 月）

日和山や地獄谷では噴気活動が続いており、大湯沼などでは熱水活動が続いています。

2 上空からの観測結果

北海道開発局の協力により 10 月 12 日に実施した上空からの観測では、日和山や地獄谷では噴気活動が続いており、大湯沼などでは熱水活動が続いています。これらの状況は昨年 10 月の現地観測時と比べ大きな変化はありません。

【地獄谷】

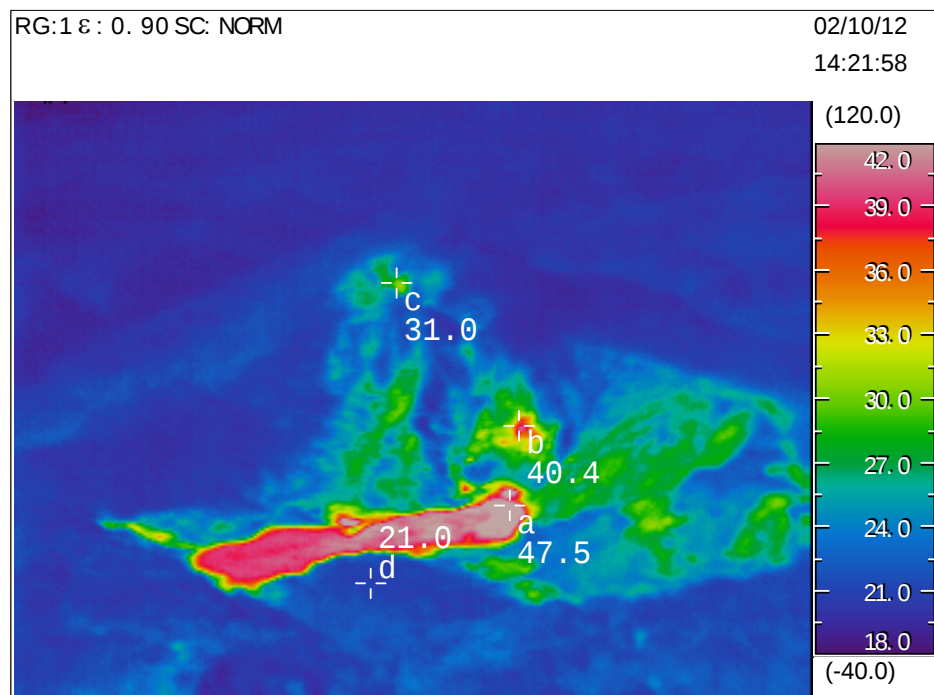
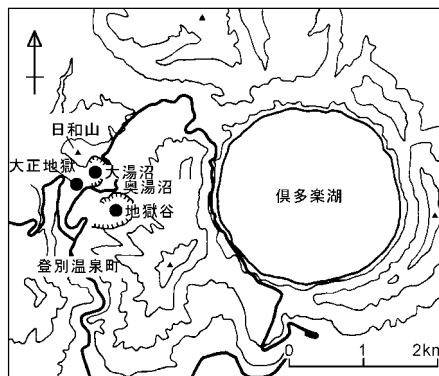
いたるところから噴気が上がっており、熱水の湧出活動も続いています。

【日和山】

山頂火口では噴気活動が継続しているほか、赤外熱映像装置による観測で山腹の地熱域が確認できました。山腹の地熱域は以前から認められており、特に変化はありません。

【大湯沼・奥湯沼・大正地獄】

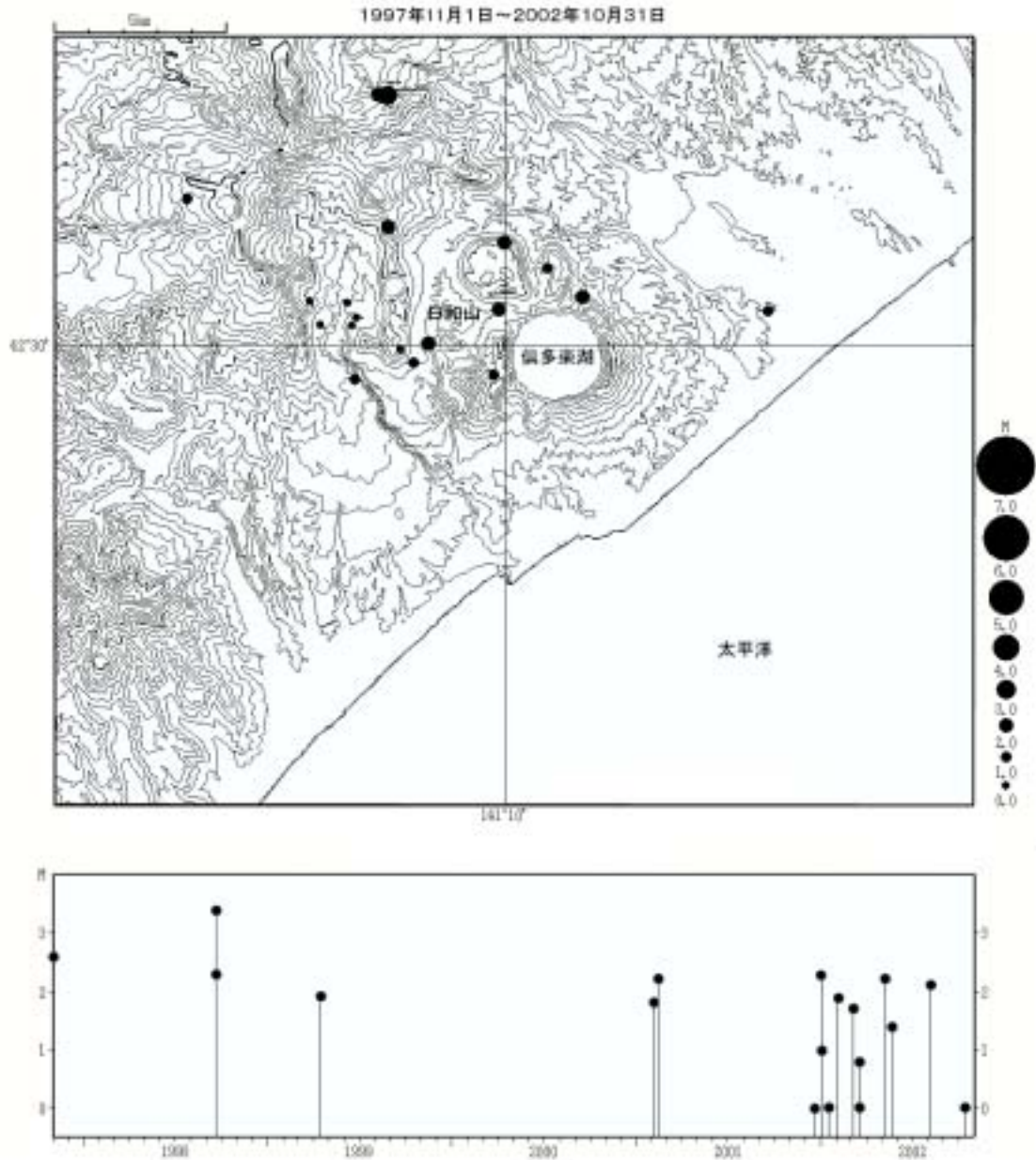
熱水の湧出活動が続いています。大湯沼北側の噴気活動は衰退していました。



南東上空から見た日和山と大湯沼の赤外熱映像（10 月 12 日 14 時 21 分、天気晴れ、開発局のヘリコプターから撮影）a：大湯沼の水面 47.5、b：日和山山腹の地熱域 40.4、c：日和山山頂火口の噴気孔 31.0、d：森林の表面温度 21.0

3 地震活動の状況

札幌管区気象台が広域地震観測網により決定した最近 5 年間の震央分布は下図のとおりです。倶多楽周辺地域では散発的に地震が発生していますが、地震活動はそれほど活発ではありません。2002 年になって地震回数が増えているのは、観測網の充実により小さな地震まで検知可能になったためで活動の活発化ではありません。



上段：倶多楽周辺地域の震央分布図（1997 年 11 月～2002 年 10 月、深さ 0～30km の地震）
（本資料は、大学等関係機関及び気象庁のデータを用いて作成されています）

下段：地震活動経過図（規模別、マグニチュード未決定の微小な地震は $M = 0$ として表示）